

令和6年度 チャレンジみらい予算 実施レポート

令和7年3月 職員課・総合政策課・財政課



目次

01 チャレンジみらい予算について

チャレンジみらい予算とは	…4
令和6年度実施事業	…5

02 事業別報告書

個人提案	FUKUIラジオ部 ふくチューナー事業	…7
	デザイン思考による政策創造プロジェクト	…8
	タブレットを持って現地へGO！	…9
	これが私の生きる道！シニアパーティー事業	…10
	ふくっこもくもく広場事業	…11
	認定路線図等公開システム構築事業	…12
	「マイホーム これからノート」で空き家発生予防プロジェクト	…13
チーム提案	AIを用いた管渠劣化予測の導入可能性調査事業	…14
	もったいないを、ほっとけない。粗大ごみリユースプロジェクト	…15
	歩いて貯めよう！スマホde健康ポイント事業	…16
	県民衛星「すいせん」活用事業	…17
	足羽山回遊プロジェクト事業	…18

01

チャレンジみらい予算 について

チャレンジみらい予算とは

若手職員がチャレンジできる場を創出し政策形成能力の向上を図るとともに、若手ならではの柔軟なアイデアに基づく事業の実施により、市民生活の向上や地域活性化などを目指す取り組みです。

提案の種類

個人提案

個人で自所属に関する事業を提案



チーム提案

チームで自所属or他所属に関する事業を提案



概要

創設時期

令和元年度

令和4年度

採択事業数
(～R6累計)

87

8

これまでの主な事業

個人提案

下水道GISシステム遠隔利用事業

上下水道局内でしか利用できなかった下水道GISシステムを、現場で利用できる環境を整えることにより、下水道管路の陥没や閉塞等の緊急対応の迅速化や、点検や工事に伴う立会い業務等が効率化された。



チーム提案

公共政策にナッジを活用！～福井市ナッジ・ユニット結成～

ナッジ（行動科学の知見の活用により、人々がより良い選択をとれるよう手助けする政策ツール）を各公共政策に取り入れるため、情報発信や相談支援等を行う体制を整えることにより、様々な事業を効果的に実施することができた。

木造住宅耐震改修促進事業の案内ナッジ(建築指導課)





令和6年度 実施事業

全12事業・総額19,620千円が予算化され、事業を実施しました。



個人提案			8事業 12,683千円
事業名	所属	事業費 (千円)	
FUKUIラジオ部 ふくチューナー事業	広報プロモーション課	868	
デザイン思考による 政策創造プロジェクト	総合政策課	150	
タブレットを持って現地へGO！	資産税課	2,728	
これが私の生きる道！ シニアパーティー事業	地域包括ケア推進課	287	
ふくっこもくもく広場事業	こども家庭センター	990	
認定路線図等公開システム構築事業	監理課	3,820	
「マイホーム これからノート」で 空き家発生予防プロジェクト	住宅政策課	100	
A I を用いた管渠劣化予測の 導入可能性調査事業	下水管路課	3,740	

チーム提案			4事業 6,937千円 (歳入を除く)
事業名	所属	事業費 (千円)	
もったいないを、ほっとけない。 粗大ごみリユースプロジェクト	収集資源センター	(歳入)250	
歩いて貯めよう！ スマホde健康ポイント事業	健康管理センター	2,320	
県民衛星「すいせん」活用事業	林業水産課	1,617	
足羽山回遊プロジェクト事業	足羽山公園事務所	3,000	

02

事業別報告書



FUKUIラジオ部 ふくチューナー事業

市内にある3つの大学の学生がラジオパーソナリティとなり、福井市の情報や魅力、地域の取組を紹介するラジオ番組を放送しました。同世代の共感と呼び、若者へ市政情報を届け、若者の福井市への関心を高めることができました。

取組内容

①テーマ決め

若者自ら福井市の魅力や取組を調べる。



②取材・打合せ

担当課や、関係する場所（例：市所有施設、観光名所）に訪れ、取材をする。



③収録

大学生ならではの言葉、トークテーマで市政情報を発信。



④放送

毎週金曜日のお昼に放送。放送後はYouTubeにてアーカイブ配信を実施。



■テーマ例

- ・今食べたい！～さんりはまベジフル～（8/9）
- ・スポーツ～待ってました！サクラサク福井初の大規模都市型フルマラソン～（9/20）
- ・防災～災害への備え～（11/8）

所感

- テーマ決めや取材をしてみて、想像以上に若者に市政の情報が届いていないことを痛感した。しかし、学生から「初めて知った」「初めて観光地に来た」などの声を聞き、この取組が福井市を知るきっかけになったことを実感し嬉しかった。
- 若者ならではの視点や感性はとても鋭く、取材した担当課にとっても若者側の意見を取り入れる機会となり相互作用が生まれて良かった。
- 今後も見ることができるYouTubeのアーカイブ配信やTikTokを通して、この取組が市内外のより多くの若者に届き、市政への関心が高まることに繋がってほしいと感じる。

成果

①テーマ決め

➡ 若者が自発的に福井市の市政情報を調べる
福井市の取組みや魅力を知るきっかけとなった

②取材・打合せ

➡ 担当課職員に直接話を聞くことでネットではわからない部分まで話を聞ける
学生は福井市への理解をより深めることができた
担当課は、学生目線の意見をきくことができた

③収録

➡ 同世代に伝わりやすい言葉選びや、興味を惹く話題を考え収録
若者目線で会話を繰り広げ、
難しい市政情報もわかりやすく発信できた

④放送

➡ リスナーさんから「若者らしさが出ていて聴いていて楽しい」などの声や、参加学生の知人から「聴いたよ」との声が多数あり
同世代からの共感と呼び、若者に市政情報を届けることができた

■その他情報発信

- ・TikTok：番組紹介の広告、切り抜き動画の配信
- ・街角ジャーナル：番組広告の掲載
- ・公共放送：NHKニュースザウルスふくいで活動の様子を紹介（9/3）

実施メンバー

広報プロモーション課

越後
森田櫻井
坪川



デザイン思考による政策創造プロジェクト

新たな政策手法として注目されている「デザイン思考※」を習得することにより、行政運営の効率化や住民サービスの向上を図りました。

※デザイン思考…人間中心起点で発想することを通じて、より深く課題の本質を見極める思考法のこと。

取組内容 & 成果

「デザイン思考に対する職員の理解促進（フェーズ1：学習）」及び「実際にデザイン思考を取り入れたワークショップ（フェーズ2：試行）」を実施。

フェーズ1 学 習 職員向け研修会

日 時 5月23日(木)13:30～15:00

参 加 者 本市職員(29名参加)

プログラム ●デザイン思考に関する講演

講師 デザインアシスト

鷹屋 信隆 氏



●福井県政策デザイン事例紹介

講師 福井県 未来戦略課

塚田 企画主査

アンケート結果

- デザイン思考によって**新たな価値**やサービスが生み出されることが理解できた。
- 県での取組事例も聞くことができ、業務への**取り入れ方のイメージ**がわかりやすかった。
- 管理職にも**知ってもらえるとよい。



所感

- 研修会では、デザイン思考の認知度不足や政策への取り入れ方への不明瞭さといった課題に対し、多義的な「デザイン」をわかりやすく伝えることに取り組んだ。
- 研修会に参加しデザイン思考に関心を持った職員を中心に、チャレンジ！デザインワークショップに参加してもらった。ワークショップでは、福井で活躍するデザイナーの方々から行政職員では気づきにくい課題の本質に踏み込んだアイデアをいただくなど、今後の事業展開のアドバイスをいただいた。

フェーズ2 試 行 チャレンジ！デザインワークショップ

事業内容

事業担当所属と**デザイナー**との**マッチング**を行い、デザイン思考を政策に取り入れる

スケジュール

5月23日

所属からの応募

6月下旬

採 択

7月

デザイナーとのマッチング

7月～8月

ワークショップによる課題検討

～9月末

解決の糸口を見いだす

事業数

- 4事業 ●こどもの居場所(こども育成課)
●新・ゴミ分別(環境政策課)
●冬の夜間のにぎわい(商工振興課)
●越前海岸PR(観光振興課)

デザイナー

総勢7名のデザイナー陣が参画



- 今後も、デザイン思考のような住民に寄り添う視点を大切にした政策立案力の向上の機会を提供していきたい。

実施メンバー

総合政策課

梅田



タブレットを持って現地へGO！

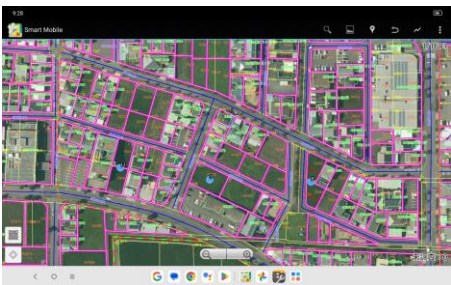
固定資産税の賦課に必要な現況調査において、タブレットを活用することによりデジタル化を進め、業務の効率化・省力化を図りました。

取組内容

現況調査の際に、タブレットを導入・活用

【タブレットの主な機能】

- ・GISの格納
- ・調査に用いる紙資料のデータ化
- ・GPS位置表示機能
- ・建物被害認定調査項目の搭載



所感

- タブレットの導入にあたり、調査に活用できる十分な機能を備えたものにするまで時間はかかったが、日々の業務の効率化に貢献できたと思う。引き続き、より良い運用方法について検討・改善を重ねていきたい。
- 市と開発業者で何度も打合せを重ねることで、双方納得がいくタブレットを導入することができた。

成果

■ 現地でのGIS確認が可能に

調査対象周辺の土地や家屋について、その場で課税状況の確認を行い、カメラ機能を用いて現況を撮影することで、何度も現地へ再確認に赴く必要がなくなった。

■ 必要な紙資料がタブレット1台に

調査時に持ち出していた大量の紙資料がタブレットに格納されたことにより、資料がかさばらず作業効率が上がった。

〈紙資料の削減効果〉調査1件あたりの削減枚数：約 **5** 枚

■ GPS機能によりいつでも現在地特定可能

従来は住宅地図に調査場所を落とし込み、経路を考えていた。導入後は、常時GIS上に位置情報が表示されるため、調査対象地や現在地の特定、経路設定が容易かつ効率的に行えるようになった。



- タブレット端末を、現地調査はもちろん日々の業務でも活用できないかと検討している。業務の効率化・DX化をこれからも進めていきたい。

実施メンバー

資産税課

山本
藤田（圭）吉川
藤田（夏）



これが私の生きる道！シニアパーティー事業

楽しく終活を始めるためのきっかけとして、福井県版エンディングノート「つぐみ」の書き方等を学ぶ終活講座や、終活カードゲームを使ったグループワーク、メモリアルフォトの撮影を行いました。

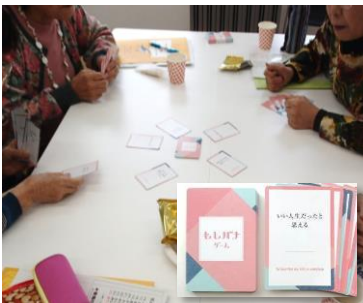
取組内容

①～③に取り組む講座を3回実施

①エンディングノートの書き方等を学ぶ終活講座



②終活ゲームを使ったグループワーク



③メモリアルフォト撮影



所感

- 終活は「本人の不安の軽減」「将来の家族負担の軽減」「介護予防効果」が期待できる、まさに一石三鳥の取り組みだと感じた。
- 普段開催している終活関連講座より前向きな感想が多かった。ゲームや写真撮影により参加者が楽しく取り組めた結果だと思う。

成果

- 参加人数 ➡ 33名
- 講座をきっかけに終活を始めたいと思った方 ➡ 97%
- エンディングノートの記入＋メモリアルフォト撮影
➡ 本人の不安と将来の家族の負担を軽減
- 新聞掲載や参加者の周知によりエンディングノート配布数増加、地域包括支援センター主催の講座で終活カードゲームを実施
➡ 終活への関心が高まった



実施メンバー 地域包括ケア推進課

森川、北川
企画係
地域包括支援係

〈フォト撮影協力〉
広報プロモーション課
広報紙係



ふくっこもくもく広場事業

木製遊具を備えた遊び場「ふくっこもくもく広場」を来所相談会等と併せて設置することで、こども家庭センターに気軽に来所してもらうきっかけとするとともに、子どもに関する相談窓口である「ふくっこ相談窓口」や「ふくっこダイヤル」の周知をしました。

取組内容



- ・木製すべり台、木のボールプール（福井県産材）等、木製遊具を設置
- ・にこにこ相談会（10回）、助産師・ママくらぶ（9回）と併せて開催
- ・「健康フェア」（ベルあじさいホール）で「出張もくもく広場」開設（1回）



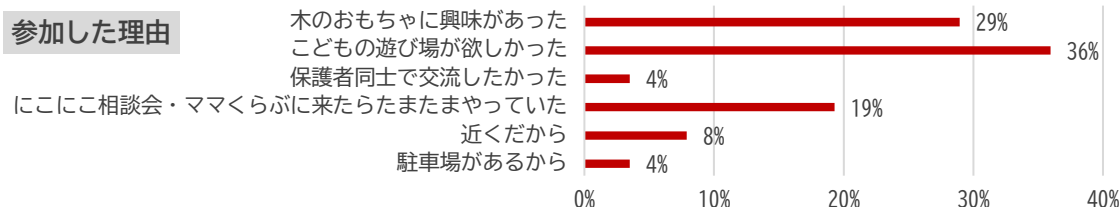
所感

- ・来所相談会等と同時に乳児などが安全に遊ぶ機会を提供することで、気軽に来所しなくなる雰囲気をつくることができた。親御さんの評判も良く、「また利用したい」との声をもらい、こども家庭センターの周知ができたと感じた。

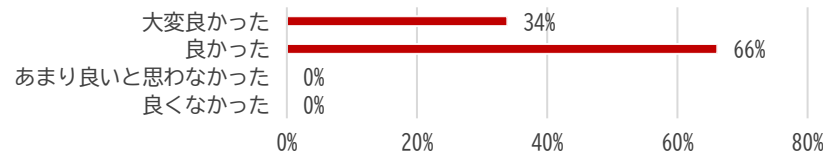
成果

- 開催回数（R7.1月末時点）**20回**
- 利用者数（R7.1月末時点）**乳児：123名、幼児：52名**
- 来場者の声（来場者へのアンケート報告より）

参加した理由



満足度



利用した感想（抜粋）

- ・こどもはおもちゃ、母は母同士で会話できるからよかったです。
- ・色々な木の遊びを体験できてうれしいです。また利用したいです！
- ・木のおもちゃ、とっても良かったです。
- ・未就園児なので、他の子と遊べるのもよかったです。

- ・こども家庭センターのInstagramを新規で開設し、「もくもく広場」についても情報発信を行った。こどもたちが遊んでいる様子を掲載することで、若い子育て世帯にも親しみやすく「もくもく広場」を知ってもらえる機会とすることができた。

実施メンバー

こども家庭センター
広報チーム

高岡 羽柴 杉本



認定路線図等公開システム構築事業

道路台帳等の図面情報をインターネット上に公開するシステム「ふくいマップ」を作成し、市民及び事業者等が窓口へ来庁する負担を減らすことで、「行かない窓口」の実現を図りました。

取組内容

来庁、手数料が必要だった

道路台帳図(道路幅員や名称等を示した図面)や換地図(土地区画整理事業等が行われた際に成果として保管する図面類)等の情報を入手するには、事業者や市民が市役所に来庁し、手数料と引換に情報を入手する必要があった。

いつでも情報が入手可能に

このような不便解消のため、パソコンやスマートフォン等で24時間いつでも無料で情報が入手できるよう「ふくいマップ」を作成し、図面等の情報をインターネット上に公開した。



成果

★1か月の窓口交付件数が前年比**40%減少**！

令和6年(1月)239件 ⇒ 令和7年(1月)143件(前年比▲96件)
※道路台帳図と換地図のみ件数

★「ふくいマップ」への利用者数が**324件**(R7.1月末時点)に到達！

★「ふくいマップ」利用者アンケート結果、**平均4.5**を獲得！
※5段階評価

所感

- 道路の名称や幅の問い合わせが繰り返される毎日…。そんな日々から脱却することが、市民の利便性向上と職員のモチベーション向上に繋がると思い、皆さんの力をお借りして事業を提案することができた。小さな改善を達成するには、日々の疑問を残しておくことが大事だと感じた。

- 今回のシステムを導入した際に「こんな良いものでしたんですね」等、窓口でうれしい意見をいただく機会がたくさんあり、ダイレクトに効果を実感することができている。

実施メンバー

監理課

西澤

監理課

市川

「マイホームこれからノート」で空き家発生予防プロジェクト

空き家問題を自分事として前向きに考える機会を創出するため、住まいに関するエンディングノートを作成し、窓口に来庁した希望者や空き家無料相談会に来た希望者に配布しました。

取組内容

- 住まいのエンディングノートの作成・印刷（200部）
- 冊子配布に関する広報（広報ふくい 2月10日号）
- 窓口・空き家無料相談会での配布（12月下旬～）



住まいのエンディングノート



広報ふくい



成果

- 配布部数 50部（R7.1月末時点）
- 報道機関からの取材（福井新聞 R7.1.8掲載）



空き家無料相談会

所感

- これまでの空き家対策では、空き家になってしまった後の対応が主だったが、今回の事業で空き家の発生自体を予防できる取り組みを行うことができた。
- 市民の方はもちろんのこと、職員もエンディングノートを求めて住宅政策課の窓口を訪ねてくれるなど、自分が発案した事業の影響を実感することができた。

- 今後は、市政出前講座で住まいのエンディングノートの書き方講座を開催するなど、より周知をしていきたい。

実施メンバー

住宅政策課

大橋

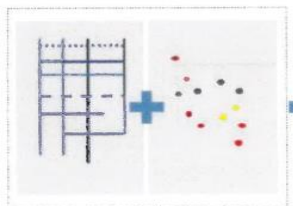
AIを用いた管渠劣化予測の導入可能性調査事業

AI技術を活用した管渠劣化診断を導入し、老朽化した下水道管路施設の調査点検業務を効率的に進めるため、導入可能性調査を実施しました。

取組内容

AI技術を活用した管渠劣化診断を行うためのデータ整理等を行いました。

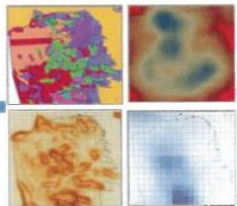
データの取得・整理



データ

- 下水管情報（管径、施工年度）
- カメラ調査結果
- 陥没事故実績 等

環境ビッグデータの活用



環境ビッグデータ

- 土地情報（標高等）
- 道路情報（主要道路、鉄道等）
- 建物情報、人口 等

AIによる計算



計算結果の可視化



可視化

- 下水管の予測された劣化状態を出力（GIS上にマッピング）

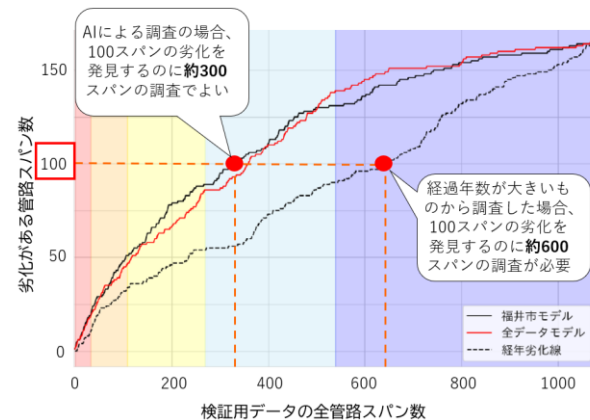
成果

① 福井市に適したAIモデルを構築し、それを用いてカメラ未調査箇所約100kmの管渠劣化診断を行った。

② 施工年度が古いものから調査する場合に比べると、AIを用いた場合、劣化を調査スパン約半分で発見できる結果となった。

◎ 時間、費用共に効率的な調査が可能であり、**導入効果が期待ができる**。

◎ 引き続き精度の検証を行い、よりよいAI管渠劣化診断システムにしていく。



所感

- 業務では、下水道の現場経験の少ないエンジニアの方と、AIに関する知識が未熟な下水管路課職員との協力が必要で、すれ違いなども多く、レベル共有に苦労した。
- 事業は令和6年度単年でのチャレンジだったが、AIはデータがあればあるほど精度が増すので、情報の収集と精度の確認をさらに進めていく。
- 他県で大きな下水道事故が発生し、今後も多様な維持管理技術が開発されると思われる。今回の技術だけでなく最新の情報に目を向けて業務に取り組みたい。

実施メンバー

下水管路課

平野

下水管路課

高田



もったいないを、ほっとけない。粗大ごみリユースプロジェクト

収集資源センターに持ち込まれた粗大ごみのうち、使えるものをメルカリを活用してリユースしました。また、リユースの取組を広く発信することで、市民の方に循環型社会の実現に向けた意識醸成を行いました。

取組内容

- 粗大ごみの中から、リユースできる品物を選択し、商品登録を行い（写真撮影・商品の説明・サイズ測定・汚れ傷等の確認）メルカリShopsに掲載
- 福井市メルカリShopsのトップ画面に季節に応じたフェアを実施（「冬物市」「初売り」「新生活応援フェア」など）



所感

- メルカリshopsオープン後、職場の意見をもらいながらShops運営を行い、また購入者の方からも様々な意見を頂いた。それらを参考にしながら、楽しくメルカリShopsの運営を行うことができた。
- ごみのリユースについて、市民の理解が得られるか心配したが、むしろ多くの協力や評価をいただいた。

成果

販売件数、金額（R7.1月末時点）

- 件数：92件（登録：104件）、金額：97,740円

情報発信

- メルカリShopsオープン（5/29）
（NHK・FBC・福井新聞・朝日新聞・読売新聞・中日新聞・merpoli 放送及び掲載）
- メルカリで販売の「粗大ごみ」人気商品はあの“重た～い”もの 福井市が市民の「もったいない」意識醸成へ（福井テレビ 7/16放送）
- もったいないをほっとけない粗大ごみリユースプロジェクト
（福井ケーブルテレビ 8/1～8/31放送）

他自治体からの問合せ（R7.1月末時点）

- 県外3自治体、県内1自治体



実施メンバー

収集資源センター	岡田	環境政策課	荒川
保険年金課	塚谷	財政課	島出
施設活用推進課	山田	総合政策課	伊原



一歩いて貯めよう！スマホde健康ポイント事業

スマートフォンアプリを活用し、毎日の歩数や健診・検診受診、健康づくりの取り組みに応じて健康ポイントを付与しました。一定ポイントに達した方の中から抽選で賞品を進呈することで、市民の健康的な生活習慣の定着を図りました。

取組内容

- これまで専用シート（紙媒体）で実施していたものを、スマホアプリでも参加できるようリニューアル



- 様々な媒体を使って周知



チラシ配布



ケーブルテレビ「いきいき情報ふくい」



アプリ説明会



健康フェアでのアプリインストール支援

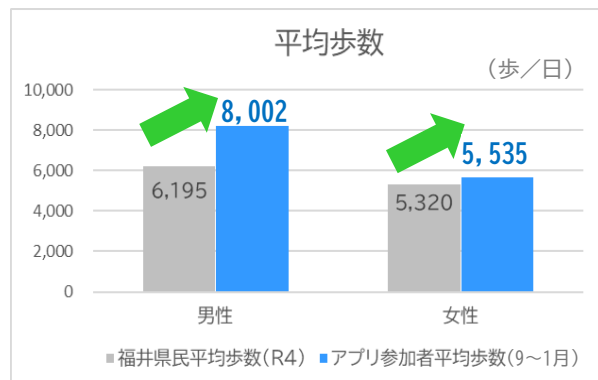
所感

- 長年、検討してきたアプリ導入をチームで取り組み、事業をスタートすることができた。
- 予想を上回る方にご参加いただき、課題だった男性や若い世代の参加が増え、とても嬉しかった。

成果

※R7.1月末時点

- アプリダウンロード者数 4,252名
- 男性の割合が増加 22% ➡ 49%
- 働く世代である50歳代までの割合が増加 33% ➡ 69%
- 男女ともアプリ参加者の平均歩数が県民平均よりも多い



- 今後も市民が楽しみながら継続して健康づくりに取り組めるよう、工夫を凝らしたい。

実施メンバー

健康管理センター

田谷

保険年金課

玉村



県民衛星「すいせん」活用事業

発生した自然災害に対して県民衛星「すいせん」から得る情報に基づいた衛星画像利用システムを活用することで、概況を把握し、調査時間の短縮、職員、所属間の連携強化等による復旧対応のスピードアップを図り、市民の安全確保につなげました。

取組内容

- ① 衛星画像比較による災害の概況把握



- ② タブレット導入による連携強化



- ③ SNSによる災害情報の発信



成果

- ① 衛星画像比較による災害の概況把握



自然災害発生時に適宜実施

- ② タブレット導入による連携強化



入力した現場 90件 (R7.1月末時点)

- ③ SNSによる災害情報の発信



マイマップ閲覧数 6,685回 (R7.1月末時点)

所感

- 前例のない事業であるため、事業実施体制のあり方や市民の安全確保にどうつなげていくか苦心したが、一緒に取り組んでくれるメンバーや協力会社と密に協議を重ねることで、何とか形にすることができた。一人ではできる事は限られており、誰かと協力することの大切さを感じる良い経験となった。

- 災害時は市民生活を守るため迅速かつ正確な対応が求められる。過去に経験した災害対応をもとに「いかにタイムパフォーマンスを向上させるか」を、他課で同じ志を持つ若手職員と連携しながら取り組み、実現するという大変有意義な経験ができた。

実施メンバー

林業水産課

佐々木

農村整備課

橋本



足羽山回遊プロジェクト事業

足羽山全体を子育て世帯の遊び場とするきっかけを作るため、来園者を円滑に誘導するための道路サインと案内サインを設置し、道路分岐点には足跡ペイントを設置しました。また、来場者の思い出づくりとして、足羽山内に2か所、顔出しパネルを設置しました。

取組内容

① 道路サインと案内サインの設置



② 足跡ペイントの設置



③ 顔出しパネルの設置



所感

- 今後の足羽山が親子で遊べる場所として選ばれやすいきっかけをつくることができた。
- 子育て全盛期のメンバーが多く、様々な人を巻き込んで出し合ったアイデアは普段の業務では思いつかないことも多々あり、良い経験になった。
- 足羽山公園事務所に所属しており、足跡ペイントの上を楽しみながら歩く子ども等、本プロジェクトで変化していく足羽山の様子を見ることができた。
- 親子連れで足羽山に来るきっかけづくりをすることができた。

成果

道路サインを3箇所、園内サインを8箇所に設置

子育て世帯の「足羽山への登り方が分からない」「途中で道に迷ってしまう」という声を聞き、この取り組みを進めることとした。足羽山に登りやすく、入ったら目的地までの道案内がスムーズにできるようになった。

足跡ペイントを道路分岐点（4箇所）に設置

道路の分岐点にカピバラ、シジュウカラ、橘曙覧の足跡を、親子でペイントするワークショップを開催。定員10組のところ25組の申し込みがあり、全員に参加していただくことはできなかったが、3種類の足跡を参加者32名で和気あいあいと塗ることができた。今後は、この足跡を見て足羽山を散策する親子が増えてほしい。

顔出しパネルを足羽山内2か所に設置

顔出しパネルのデザインについては、コンテスト形式で公募をした。県内の高校や大学等にチラシを配布した効果もあり、市内外から老若男女を問わず、118作品の応募があった。

- 来園者には足跡ペイントを見ながら、より足羽山を楽しんでもらいたい。
- 普段の業務では企画立案に携う機会が少ないため、貴重な経験となった。

実施メンバー
(足羽山キャラバン隊)

監理課
足羽山公園事務所
足羽山公園事務所

西澤
西本
西出

公園課
道路課
営繕課

矢部
田中
田中